

## 特集

# 第185回 地元企業動向調査結果【2020年7~9月期】

～『景況感DIは△30.1と30.5ポイント上昇し、最悪期は脱したと見られる』～

## 概 要

2020年7~9月期の県内企業の景況感DI（前期比）は△30.1と30.5ポイント上昇し、4期ぶりに改善した。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令を受けて、経済活動が停滞した4~6月期に比べて良化傾向にある。前年比では△58.8と8.1ポイントの回復に留まるものの、ひとまず最悪期は脱したとみられる。

来期の景況感DI（前期比）は△15.9と14.2ポイント上昇の見通し。社会経済活動が再開されたことに伴う需要の回復や国の「Go To キャンペーン」など各種施策の効果もあり消費マインドが向上する中で、企業の先行きの見通しに薄日が差している。

### 1. 景況判断

#### 景況感（所属業界の景気判断）

2020年7~9月期の県内企業の景況感DI（前期比）は△30.1と前期比30.5ポイント上昇し、4~6月期（26.3ポイント低下）から改善した。

業種別にみると、製造業は△40.1と22.7ポイント上昇し、非製造業は△21.1と37.5ポイント上昇。来期の景況感DI（前期比）は△15.9と14.2ポイント上昇の見通し。

### 2. 企業（自社）の経営状況

- (1) 売上高：売上高DIは、3期ぶりに改善。
- (2) 生産高・受注高・操業率：生産高DI・受注高DI・操業率DIはいずれも上昇。
- (3) 製商品の在庫水準：製造業は3期ぶりに、非製造業は2期ぶりに過剰感が弱まった。
- (4) 仕入・販売価格：仕入価格DI、販売価格DIともに3期ぶりに上昇。
- (5) 経常利益：経常利益DIは4期ぶりに改善。
- (6) 生産・営業用設備：3期連続で過剰超過も過剰感は弱まった。
- (7) 資金繰り：資金繰りDIは△10.0と15.0ポイント改善。

### 3. 雇用人員

：2期連続で過剰超過も過剰感は弱まった。

### 4. 経営上の問題点、経営戦略

- (1) 経営上の問題点：製造業、非製造業ともに「売上（受注）の不振」が最多。
- (2) 重視する経営戦略：

製造業は「新製商品・新サービス開発への注力」が、非製造業は「人材育成」が最多。

### 5. 設備投資の動向

実績は、製造業が6.7ポイント上昇、非製造業が1.3ポイント上昇。

#### ■「DI」とは

アンケート結果の分散程度を指数化したもので、質問に対して「プラス（良い、増加、過剰等）」、「中立（不变、適正等）」、「マイナス（悪い、減少、不足等）」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した企業割合から「マイナス」と回答した企業割合を差し引きした指数をDI(Diffusion Index)という。

#### ■調査結果について

- ・本結果では、特に断りのない限り、奈良県企業の数値・分析結果を述べている。
- ・近隣他府県の企業については、サンプル数が少ないため、参考数値として「全産業」のDIを公表。
- ・図表等の数値については、四捨五入の関係で内訳と合計値などが合わない場合がある。

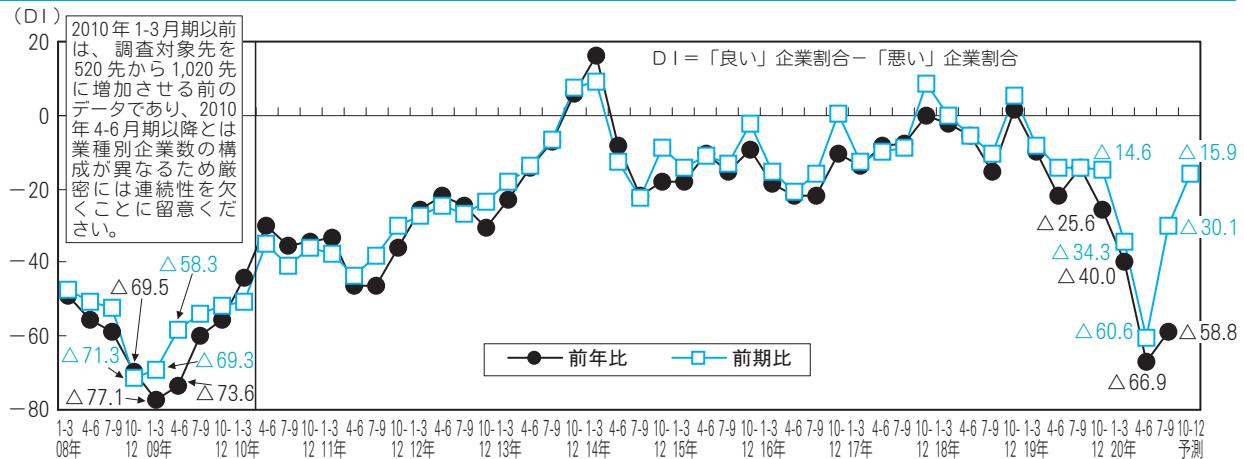
# 1 景況判断

## 1. 景況感（所属業界の景気判断）～景況感DIは△30.1と30.5ポイント上昇し、4期ぶりに改善～

2020年7~9月期の県内企業の景況感DI（前期比）は△30.1と30.5ポイント上昇し、4期ぶりに改善した。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令を受けて、経済活動が停滞した4~6月期に比べて良化傾向にある。前年比では△58.8と8.1ポイントの回復に留まるものの、ひとまず最悪期は脱したとみられる。

来期の景況感DI（前期比）は△15.9と14.2ポイント上昇の見通し。社会経済活動が再開されたことに伴う需要の回復や国の「Go To キャンペーン」など各種施策の効果もあり消費マインドが上向く中で、企業の先行きの見通しに薄日が差している。

景況感（所属業界の景気判断）（前年比・前期比、全産業）



### 主要業種（所属業界）の動向

業種別にみると、製造業は△40.1と22.7ポイント上昇。金属製品・非鉄 (+40.2ポイント)、食料品 (+39.2ポイント)、木材・木製品 (+33.1ポイント) など、化学・医薬品 (△12.5ポイント) を除くすべての業種で上昇した。

非製造業は△21.1と37.5ポイント上昇。ホテル・旅館 (+133.3ポイント)、不動産業 (+54.5ポイント)、小売業 (+53.2ポイント) など、すべての業種で上昇した。

来期は、製造業は△23.4と16.8ポイント上昇、非製造業は△9.2と11.8ポイント上昇の見通し。

主要業種（所属業界）の動向

業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前期比DI			
		前 期 4~6月期 A	今 期 7~9月期 B	B-A	来 期 10~12月期 (予測)C
全産業	289	△60.6	△30.1	30.5	△15.9
製造業	137	△62.8	△40.1	22.7	△23.4
食料品	16	△45.5	△6.3	39.2	6.3
繊維製品 (靴下)	24	△88.0	△70.8	17.2	△45.8
木材・木製品	11	△100.0	△90.9	9.1	△63.6
化学・医薬品	11	△78.6	△45.5	33.1	△18.2
プラスチック製品	8	△37.5	△50.0	△12.5	△25.0
金属製品・非鉄	21	△33.3	△14.3	19.0	△19.0
機械工業	18	△68.0	△27.8	40.2	0.0
その他の製造業	13	△60.0	△46.2	13.8	△30.8
非製造業	26	△73.1	△53.8	19.2	△38.5
小売業	29	△45.5	△27.6	17.9	△17.2
小売業	19	△90.0	△36.8	53.2	0.0
建設業	42	△31.0	△4.8	26.2	△9.5
不動産業	10	△54.5	0.0	54.5	△10.0
運輸業	7	△77.8	△71.4	6.3	△28.6
ホテル・旅館	6	△100.0	33.3	133.3	16.7
サービス業	19	△68.4	△26.3	42.1	△15.8
その他の非製造業	20	△70.0	△35.0	35.0	0.0

最近の業況に関する主な自由記述は以下の通り。前年同期に比べれば低調であるものの、緊急事態宣言の発令に伴う経済停止の影響を受けた前期に比べ、徐々に回復傾向にあるとの意見が多くみられる。

## 最近の業況に関する主な自由記述

### 改善に関するコメント

業種	内容
食料品製造	中国の需要拡大で製品輸出が伸び、顧客からの要求に対して生産が追い付いていない状態。
食料品製造	コロナ禍により大きく落ちこんだ4月・5月に比べて、経済活動も少しずつ以前に戻り、回復の兆しが見え始めてきたように感じる。
織維製品製造	靴下についてはEC比率の増加が業績に反映し、マスク製造も売上に寄与した。
プラスチック製品製造	消毒液やアルコール類の需要増加の影響。
金属製品・非鉄製造	非常事態宣言解除以降、業界は徐々に回復傾向にある。当社も7月頃から仕事量が回復しており、12月まではこのまま右肩上がりに改善の見通し。しかし、来年に取引先が在庫過多となる可能性も示唆され、気の抜けない状態が続く見込み。
小売業	新型コロナウイルス感染症の影響で旅行客が減少し、奈良銘産品の小売店舗の売上が大幅に減少しているが、徐々に回復傾向にある。
金属製品・非鉄製造	コロナ禍の影響は続いているが、自動車業界の生産活動は回復傾向にある。
卸売業	いち早くコロナ関連商材及び衛生商品の確保を行うことができ、安定して事業を継続してきたことが売上増加に結びついた。
ホテル・旅館	国の「Go To トラベル」や奈良県の「いまなら。キャンペーン」の効果で個人客を中心に予約は4~6月に比べ増加。一方、団体客（老人会、町内会、同窓会等）の利用は昨年に比べて大きく減少。

### 停滞・悪化に関するコメント

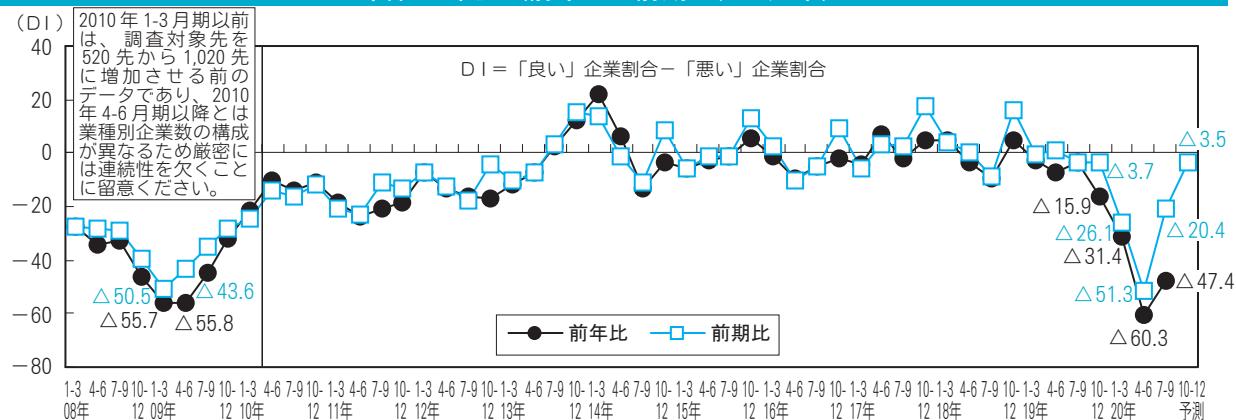
業種	内容
食料品製造	4月以降、売上は前年同期に比べて約10%減少しており、現時点では回復が見通せていない。また、工場稼働率の低下により利益も減少している。
織維製品製造	コロナ禍で業界の展示会開催もなく、先の見通しが見えてこない。
織維製品製造	コロナ禍により得意先が在庫過多となり、大幅な受注減となっている。
プラスチック製品製造	消毒用容器の受注は増加しているが、化粧品関連については減少傾向にあり、元の状態に戻るには時間がかかると思われる。
機械工業	コロナ禍で客先の設備投資が減少している為、受注・販売に大きく影響が出ている。
その他の製造業	イベント中止が大打撃である。
卸売業	昨年生じた、消費税増税前の駆け込み需要の反動が見られる。
不動産業	新型コロナウイルス感染症の影響により賃貸料を一部引下げ。
ホテル・旅館	食事宴会利用減少、関東方面からの宿泊客減少、修学旅行の中止。

## 2. 自社の業況

自社の業況は、前期比DIが△20.4と30.8ポイント上昇し、5期ぶりに改善した。前年比では、△47.4と12.9ポイント上昇し、4期ぶりに改善した。来期は△3.5と17.0ポイント上昇する見通し。

(注)比較的業績の振るわない企業は回答を敬遠しがちになるため、本調査での「自社の業況」は「所属業界の景気」よりも良好な数値となりやすい。

### 自社の業況（前年比・前期比、全産業）



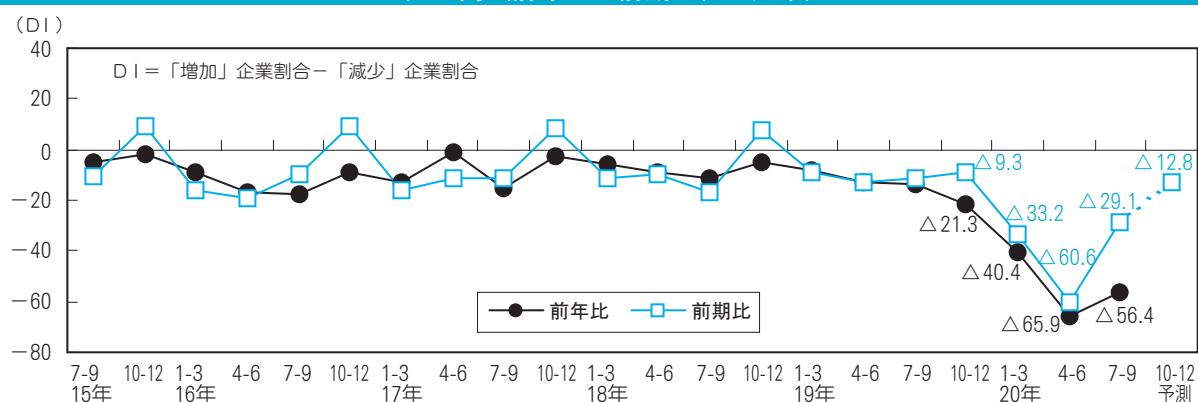
## 2 企業（自社）の経営状況

\*本頁以下の項目は、業界としての判断ではなく、回答企業（自社）内の状況により判断されたものである。

### 1. 売上高 ~売上高DIは3期ぶりに改善~

売上高は、全産業の前期比DIが△29.1と31.6ポイント上昇し、3期ぶりに改善。来期は△12.8と16.3ポイント上昇する見通し。

売上高（前年比・前期比、全産業）



#### 【製造業】

前期比DIは△37.2と26.9ポイント上昇。食料品(+48.3ポイント)、金属製品・非鉄(+40.2ポイント)、繊維製品(+38.3ポイント)など、木材・木製品(△13.6ポイント)を除くすべての業種が上昇した。

来期は△9.5と27.7ポイント上昇する見通し。

#### 【非製造業】

前期比DIは△21.7と35.6ポイント上昇。ホテル・旅館(+133.3ポイント)、他の非製造業(+75.0ポイント)、不動産業(+63.6ポイント)、小売業(+42.9ポイント)などすべての業種が上昇した。

来期は△15.8と5.9ポイント上昇する見通し。

主要業種の売上高（前期比DI）

業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 4~6月期 A	今 期 7~9月期 B		来 期 10~12月期 (予測)C	C-B
			B-A	C-B		
全産業	289	△60.6	△29.1	31.6	△12.8	16.3
製造業	137	△64.1	△37.2	26.9	△9.5	27.7
食料品	16	△54.5	△6.3	48.3	25.0	31.3
繊維製品 (靴下)	24	△80.0	△41.7	38.3	△37.5	4.2
木材・木製品	11	△90.0	△45.5	44.5	△63.6	△18.2
化学・医薬品	8	△50.0	△63.6	△13.6	△18.2	45.5
プラスチック製品	21	△75.0	△37.5	37.5	△12.5	25.0
金属製品・非鉄	18	△23.8	△4.8	19.0	9.5	14.3
機械工業	13	△68.0	△27.8	40.2	22.2	50.0
その他の製造業	26	△86.7	△61.5	25.1	△23.1	38.5
非製造業	152	△76.9	△61.5	15.4	△30.8	30.8
卸売業	29	△57.3	△21.7	35.6	△15.8	5.9
小売業	19	△39.4	△31.0	8.4	△17.2	13.8
建設業	42	△85.0	△42.1	42.9	△52.6	△10.5
不動産業	10	△45.2	△28.6	16.7	△23.8	4.8
運輸業	7	△63.6	0.0	63.6	△10.0	△10.0
ホテル・旅館	6	△33.3	△14.3	19.0	14.3	28.6
サービス業	19	△100.0	33.3	133.3	16.7	△16.7
その他の非製造業	20	△57.9	△31.6	26.3	△21.1	10.5
【近隣他府県】	17	△70.0	5.0	75.0	20.0	15.0
		△57.9	△47.1	10.8	△5.9	41.2

## 2. 生産高・受注高・操業率 ~生産高DI・受注高DI・操業率DIはいずれも上昇~

### (1) 生産高【製造業】

生産高DIは、△32.8と28.1ポイント上昇。金属製品・非鉄(+48.2ポイント)、繊維製品(+42.7ポイント)、化学・医薬品(+37.5ポイント)などすべての業種で上昇した。

来期は△13.1と19.7ポイント上昇する見通し。

### (2) 受注高【製造業・建設業】

受注高DIは、製造業は△37.2と28.8ポイント上昇。化学・医薬品(+62.5ポイント)、金属製品・非鉄(+41.1ポイント)、繊維製品(+34.7ポイント)などすべての業種で上昇した。建設業は△21.4と26.2ポイント上昇した。

来期は、製造業は△10.2と27.0ポイント上昇、建設業は△38.1と16.7ポイント低下する見通し。

### (3) 操業率【製造業】

操業率DIは、△29.9と31.6ポイント上昇。化学・医薬品(+62.5ポイント)、機械工業(+40.5ポイント)、金属製品・非鉄(+40.2ポイント)など、木材・木製品(△2.6ポイント)を除くすべての業種で低下した。

来期は、△7.3と22.6ポイント上昇する見通し。

### 製造業の生産高（前期比DI）

業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 4~6月期 A	今 期 7~9月期 B		来 期 10~12月期 (予測)C	
			B-A	C-B		
製造業	137	△60.9	△32.8	28.1	△13.1	19.7
食料品	16	△36.4	△12.5	23.9	25.0	37.5
繊維製品 (靴下)	24	△76.0	△33.3	42.7	△33.3	0.0
木材・木製品	11	△80.0	△45.5	34.5	△54.5	△9.1
化学・医薬品	8	△62.5	△25.0	37.5	0.0	25.0
プラスチック製品	21	△23.8	4.8	28.6	△4.8	△9.5
金属製品・非鉄	18	△76.0	△27.8	48.2	11.1	38.9
機械工業	13	△73.3	△53.8	19.5	△30.8	23.1
その他の製造業	26	△76.9	△61.5	15.4	△30.8	30.8
【近隣他府県】	13	△71.4	△46.2	25.3	0.0	46.2

### 製造業・建設業の受注高（前期比DI）

業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 4~6月期 A	今 期 7~9月期 B		来 期 10~12月期 (予測)C	
			B-A	C-B		
製造業	137	△66.0	△37.2	28.8	△10.2	27.0
食料品	16	△36.4	△12.5	23.9	12.5	25.0
繊維製品 (靴下)	24	△68.0	△33.3	34.7	△37.5	△4.2
木材・木製品	11	△80.0	△45.5	34.5	△54.5	△9.1
化学・医薬品	11	△64.3	△63.6	0.6	△9.1	54.5
プラスチック製品	8	△87.5	△25.0	62.5	0.0	25.0
金属製品・非鉄	21	△33.3	△4.8	28.6	4.8	9.5
機械工業	18	△80.0	△38.9	41.1	16.7	55.6
その他の製造業	13	△93.3	△84.6	8.7	△46.2	38.5
【近隣他府県】	26	△80.8	△50.0	30.8	△15.4	34.6
奈良県建設業	42	△47.6	△21.4	26.2	△38.1	△16.7

\*近隣他府県の建設業は対象数が少ないため記載していない。

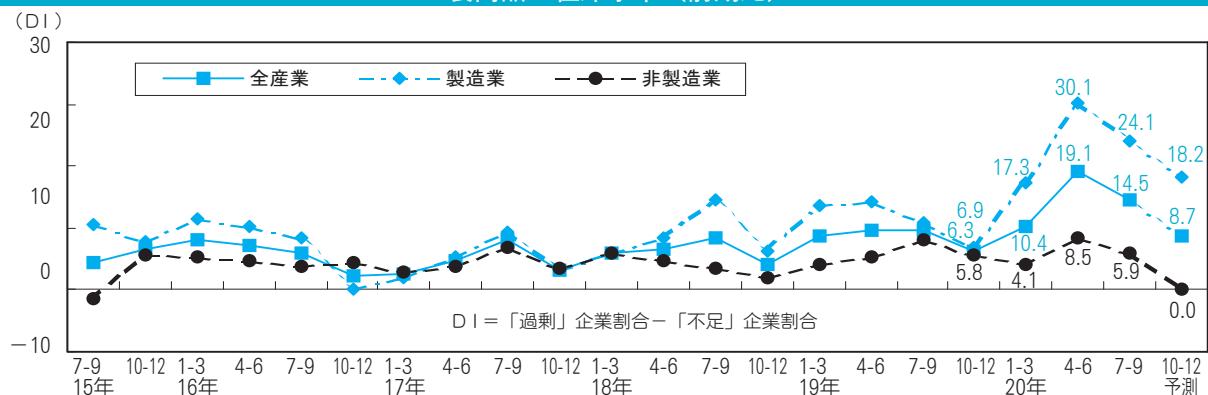
### 製造業の操業率（前期比DI）

業種別DI 【奈良県】	回答 企業 数	前 期 4~6月期 A	今 期 7~9月期 B		来 期 10~12月期 (予測)C	
			B-A	C-B		
製造業	137	△61.5	△29.9	31.6	△7.3	22.6
食料品	16	△40.9	△12.5	28.4	12.5	25.0
繊維製品 (靴下)	24	△76.0	△37.5	38.5	△33.3	4.2
木材・木製品	11	△70.0	△54.5	15.5	△54.5	0.0
化学・医薬品	11	△42.9	△45.5	△2.6	0.0	45.5
プラスチック製品	8	△75.0	△12.5	62.5	△12.5	0.0
金属製品・非鉄	21	△33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
機械工業	18	△68.0	△27.8	40.2	22.2	50.0
その他の製造業	13	△86.7	△46.2	40.5	△23.1	23.1
【近隣他府県】	26	△73.1	△50.0	23.1	△15.4	34.6
	13	△64.3	△38.5	25.8	△7.7	30.8

### 3. 製商品の在庫水準 ~ 製造業は3期ぶりに、非製造業は2期ぶりに過剰感が弱まった~

製商品の在庫水準（過不足）は、製造業が24.1と6.0ポイント低下し3期ぶりに、非製造業は5.9と2.6ポイント低下し2期ぶりに過剰感が弱まった。製造業では、機械工業（+26.2ポイント）で過剰感が強まり、プラスチック製品（+14.3ポイント）では不足超過から過剰超過に転じた。一方、木材・木製品（△31.8ポイント）、金属製品・非鉄（△27.3ポイント）、化学・医薬品（△25.0ポイント）などで過剰感が弱まった。非製造業では、小売業（+15.8ポイント）、卸売業（+5.5ポイント）で過剰感が強まり、ホテル・旅館（△33.3ポイント）、その他の非製造業（△15.0ポイント）などで過剰感が弱まった。来期は、製造業は18.2と5.8ポイント低下、非製造業は0.0と5.9ポイント低下と、いずれも過剰感が弱まる見通し。

製商品の在庫水準（前期比）



### 4. 仕入・販売価格 ~ 仕入価格DI、販売価格DIとともに3期ぶりに上昇~

#### (1) 仕入価格

全産業の仕入価格DI（前期比）は、16.6と14.4ポイント上昇。業種別にみると、製造業は13.9と15.2ポイント上昇し、非製造業は19.1と13.6ポイント上昇した。

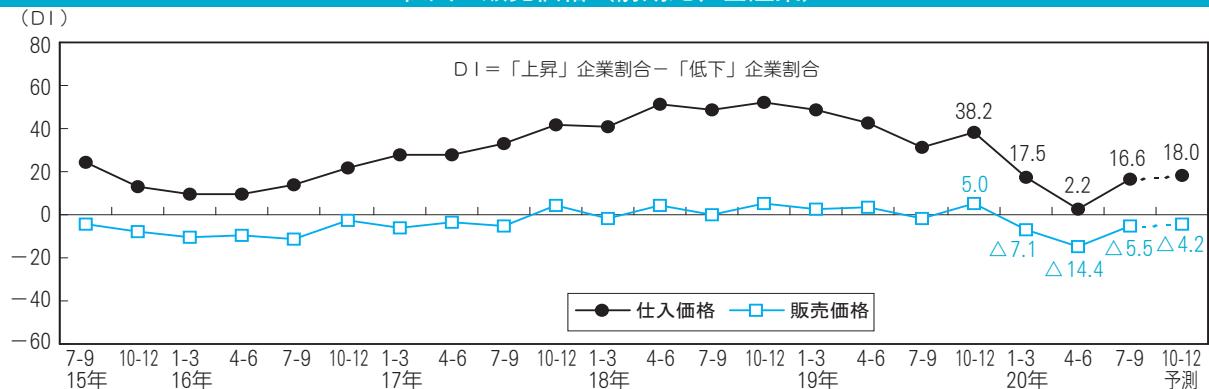
来期は、18.0と1.4ポイント上昇する見通し。

#### (2) 販売価格

全産業の販売価格DI（前期比）は、△5.5と8.8ポイント上昇。業種別にみると、製造業が△4.4と4.0ポイント上昇し、非製造業も△6.6と13.5ポイント上昇した。

来期は、△4.2と1.4ポイント上昇する見通し。

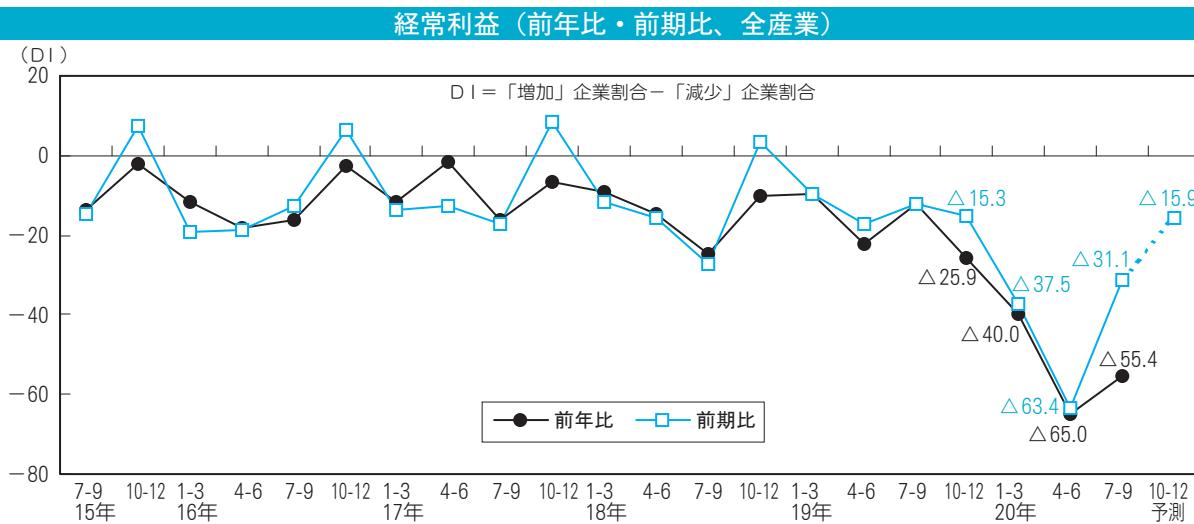
仕入・販売価格（前期比、全産業）



### 5. 経常利益～経常利益DIは4期ぶりに改善～

経常利益は、全産業の前期比DIが△31.1と32.3ポイント上昇し、4期ぶりに改善した。業種別にみると、製造業は△38.0と29.4ポイント上昇し、非製造業は△25.0と34.8ポイント上昇した。

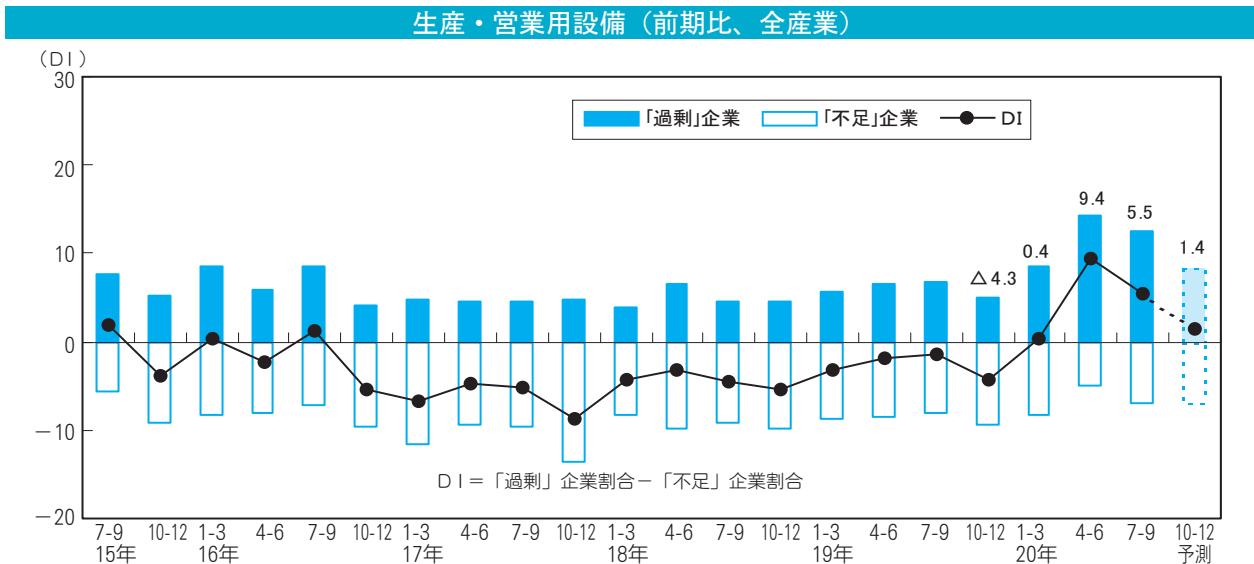
来期は△15.9と15.2ポイント上昇する見通し。



### 6. 生産・営業用設備～3期連続で過剰超過も過剰感は弱まった～

生産・営業用設備の水準は、全産業の前期比DIは5.5と3.8ポイント低下し、3期連続で過剰超過も過剰感は弱まった。業種別にみると、製造業は13.1と4.8ポイント低下し過剰感が弱まり、非製造業は△1.3と2.5ポイント低下し過剰超過から不足超過に転じた。

来期は、1.4と4.2ポイント低下し過剰感が弱まる見通し。

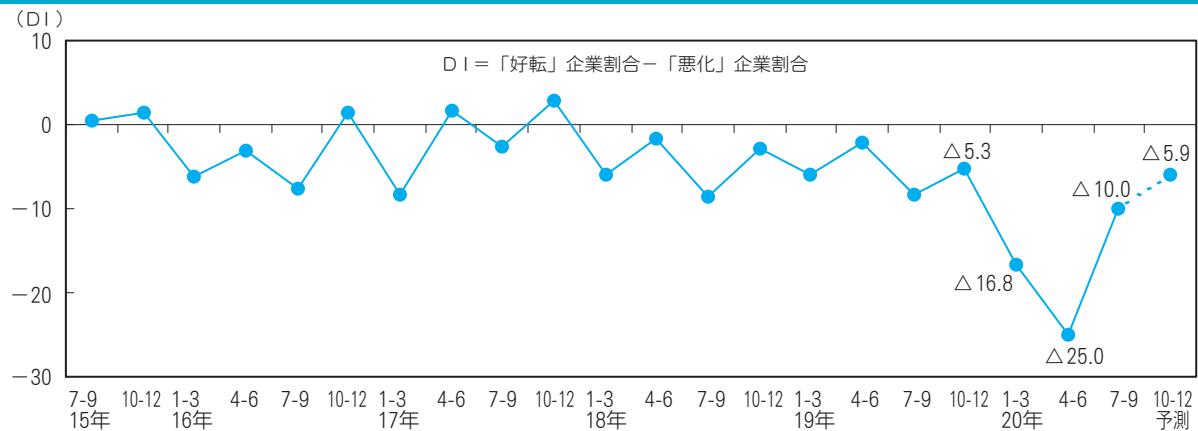


## 7. 資金繰り～資金繰りDIは△10.0と15.0ポイント改善～

全産業の資金繰りDI（前期比）は、△10.0と15.0ポイント改善し、3期ぶりに改善した。業種別にみると、製造業が△11.7と15.2ポイント改善、非製造業も△8.6と14.6ポイント改善した。

来期は、△5.9と4.2ポイント改善の見通し。

資金繰り（前期比、全産業）

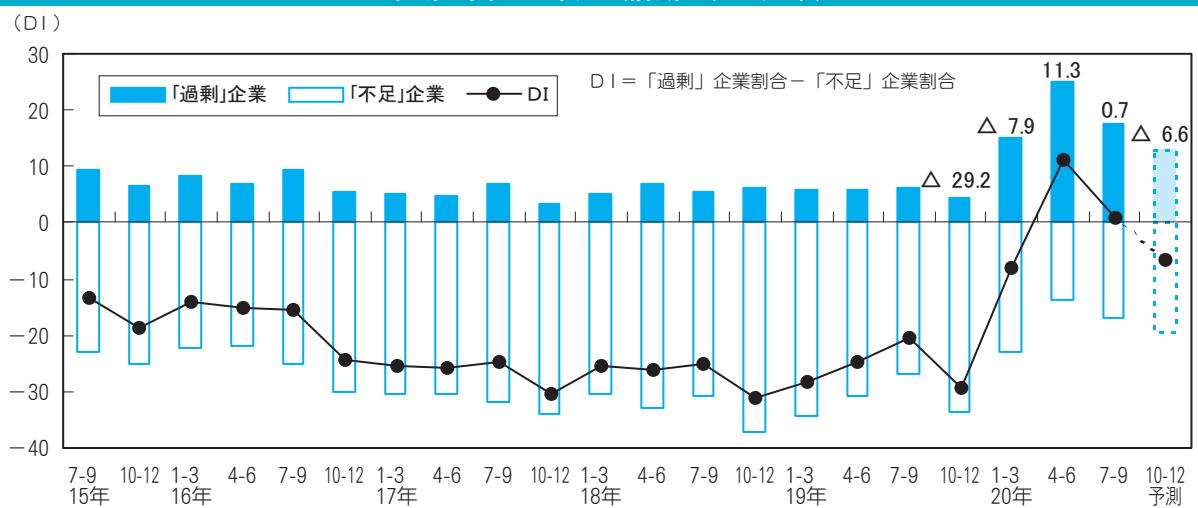


## 3 雇用人員～2期連続で過剰超過も過剰感は弱まる～

全産業の雇用人員過不足状況DI（前期比）は0.7と、2期連続で過剰超過であるものの10.6ポイント低下。業種別にみると、製造業では16.8と8.2ポイント低下し過剰感が弱まり、非製造業は△13.8と12.0ポイント低下し、不足感が強まった。

来期は、△6.6と7.3ポイント低下し、3期ぶりに不足超過に転じる見通し。

雇用人員の過不足（前期比、全産業）

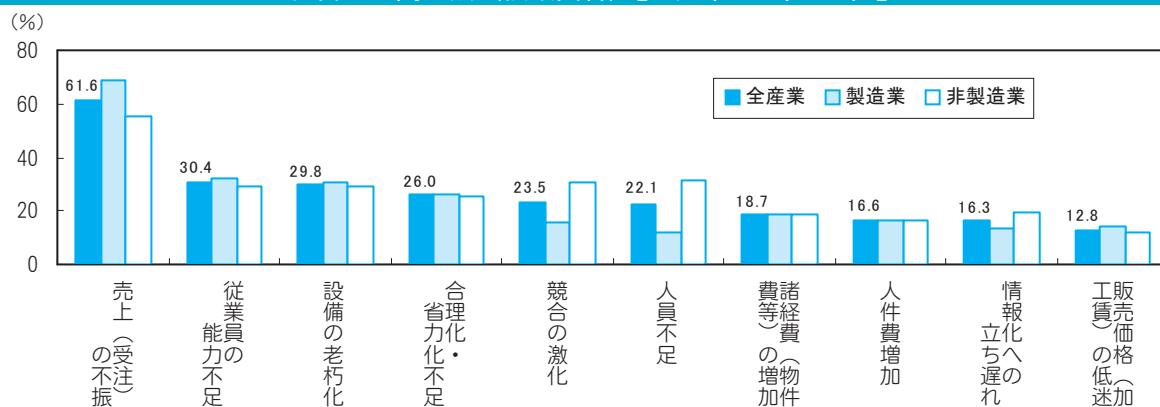


## 4 経営上の問題点、経営戦略

### 1. 経営上の問題点 ~ 製造業、非製造業ともに「売上（受注）の不振」が最多 ~

全産業の上位3項目は、「売上（受注）の不振」(61.6%)、「従業員の能力不足」(30.4%)、「設備の老朽化」(29.8%)だった。製造業では「売上（受注）の不振」(68.6%)、「従業員の能力不足」(32.1%)、「設備の老朽化」(30.7%)の順、非製造業では「売上（受注）の不振」(55.3%)、「人員不足」(31.6%)、「競合の激化」(30.9%)の順だった。

経営上の問題点（複数回答）【全産業の上位10位】



経営上の問題点（複数回答）

	回答企業数	の売上不振(受注)	従業員の能	化設備の老朽	力合理化不足・省	競合の激化	人員不足	増加諸経費等の物	人件費増加	立ち情報遅れへの	の販売価格(低加工費)
全産業	289	61.6	30.4	29.8	26.0	23.5	22.1	18.7	16.6	16.3	12.8
製造業	137	68.6	32.1	30.7	26.3	15.3	11.7	19.0	16.8	13.1	13.9
食料品	16	62.5	12.5	62.5	50.0	12.5	31.3	18.8	12.5	18.8	12.5
繊維製品	24	79.2	25.0	20.8	4.2	12.5	0.0	25.0	33.3	8.3	25.0
(靴下)	11	72.7	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	27.3	0.0	27.3
木材・木製品	11	72.7	18.2	36.4	36.4	0.0	0.0	18.2	9.1	27.3	27.3
化学・医薬品	8	62.5	12.5	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0
プラスチック製品	21	33.3	52.4	28.6	33.3	19.0	19.0	14.3	19.0	19.0	4.8
金属製品・非鉄	18	72.2	55.6	22.2	33.3	16.7	16.7	33.3	22.2	11.1	11.1
機械工業	13	76.9	23.1	23.1	15.4	15.4	0.0	15.4	7.7	15.4	0.0
その他の製造業	26	84.6	34.6	30.8	23.1	19.2	15.4	7.7	7.7	7.7	19.2
非製造業	152	55.3	28.9	28.9	25.7	30.9	31.6	18.4	16.4	19.1	11.8
卸売業	29	55.2	24.1	17.2	20.7	24.1	3.4	24.1	17.2	13.8	17.2
小売業	19	84.2	26.3	36.8	31.6	26.3	36.8	15.8	21.1	10.5	0.0
建設業	42	40.5	33.3	19.0	26.2	31.0	52.4	14.3	11.9	16.7	9.5
不動産業	10	60.0	20.0	30.0	30.0	40.0	10.0	0.0	0.0	50.0	20.0
運輸業	7	57.1	28.6	57.1	0.0	0.0	57.1	42.9	28.6	14.3	28.6
ホテル・旅館	6	100.0	16.7	66.7	50.0	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7
サービス業	19	52.6	26.3	26.3	26.3	31.6	26.3	15.8	0.0	26.3	15.8
その他の非製造業	20	45.0	40.0	40.0	25.0	45.0	35.0	25.0	40.0	25.0	5.0

全産業平均を10ポイント以上、上回る比率の部分に網掛けしている

## 2. 重視する経営戦略 ~ 製造業は「新製商品・新サービス開発への注力」が、非製造業は「人材育成」が最多~

全産業の上位3項目は、「既存製商品・サービスの高付加価値化」(46.4%)、「合理化・コストダウンの徹底」「人材育成」(ともに42.6%)だった。製造業では「新製商品・新サービス開発への注力」(59.9%)が最多、非製造業では「人材育成」(53.3%)が最多だった。

	重視する経営戦略（複数回答）											
	全産業		製造業		非製造業		全産業		製造業		非製造業	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
既存製商品・サービスの高付加価値化	①	46.4	①	44.7	②	53.3	②	51.9	③	40.1	③	37.8
合理化・コストダウンの徹底	②	42.6	③	40.0	④	43.8	④	40.4	②	41.4	②	39.6
人材育成	②	42.6	②	41.6	⑥	30.7	⑥	33.3	①	53.3	①	49.4
新規販売先（受注先）の開拓	④	41.2	④	39.1	③	48.9	③	49.4	⑤	34.2	⑤	29.3
新製商品・新サービス開発への注力	⑤	40.5	⑤	37.2	①	59.9	①	52.6	⑧	23.0	⑦	22.6
技術力・企画力の強化	⑥	36.3	⑥	31.9	⑤	38.0	⑤	34.6	④	34.9	⑤	29.3
営業部門の強化	⑦	27.7	⑦	31.3	⑧	22.6	⑦	26.9	⑥	32.2	④	35.4
新分野・新規事業への進出	⑧	24.2	⑧	24.1	⑦	27.7	⑧	25.6	⑨	21.1	⑦	22.6
情報化の推進	⑨	18.3	⑩	17.5	⑪	11.7	⑩	12.8	⑦	24.3	⑩	22.0
財務基盤の強化	⑩	14.5	⑨	17.8	⑩	13.1	⑩	12.8	⑫	15.8	⑦	22.6

全産業の上位10位。丸数字は順位。各回の上位3位に網掛けしている。

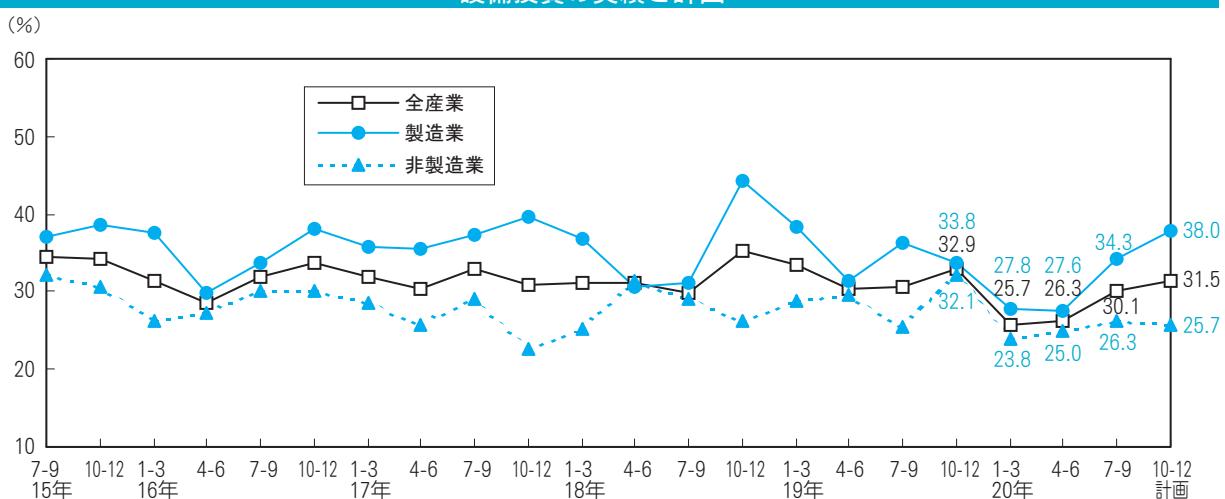
## 5 設備投資の動向

### 1. 設備投資の実績と計画 ~ 実績は、製造業が6.7ポイント上昇、非製造業が1.3ポイント上昇~

設備投資実績（実施企業の割合）は、製造業が34.3%と6.7ポイント上昇、非製造業が26.3%と1.3ポイント上昇した。

来期の計画は、製造業が38.0%と3.6ポイント上昇、非製造業は25.7%と0.7ポイント低下する見通し。

### 設備投資の実績と計画



今期の実績を業種別にみると、製造業ではプラスチック製品（47.6%）、食料品（43.8%）などで高水準である。非製造業はその他の非製造業（55.0%）で比較的割合が高い。

来期は、製造業は化学・医薬品、金属製品・非鉄（ともに50.0%）、プラスチック製品（42.9%）、その他の製造業（42.3%）などで、非製造業は運輸業（57.1%）、その他の非製造業（55.0%）などで設備投資計画が高水準となっている。

設備投資の実績と計画（業種別）						
	回答企業数	前期4~6月期（実績）A	今期7~9月期（実績）B	B-A	来期10~12月期（計画）C	(%) C-B
全産業	289	26.3	30.1	3.9	31.5	1.4
製造業	137	27.6	34.3	6.7	38.0	3.6
食料品	16	45.5	43.8	△1.7	31.3	△12.5
繊維製品 (靴下)	24	12.0	37.5	25.5	33.3	△4.2
木材・木製品	11	0.0	18.2	18.2	45.5	27.3
化学・医薬品	11	35.7	18.2	△17.5	9.1	△9.1
プラスチック製品	8	25.0	37.5	12.5	50.0	12.5
金属製品・非鉄	21	42.9	47.6	4.8	42.9	△4.8
機械工業	18	28.0	11.1	△16.9	50.0	38.9
その他の製造業	13	26.7	38.5	11.8	38.5	0.0
非製造業	26	11.5	34.6	23.1	42.3	7.7
卸売業	152	25.0	26.3	1.3	25.7	△0.7
小売業	29	9.1	17.2	8.2	20.7	3.4
建設業	19	20.0	26.3	6.3	36.8	10.5
不動産業	42	26.2	21.4	△4.8	16.7	△4.8
運輸業	10	27.3	20.0	△7.3	10.0	△10.0
ホテル・旅館	7	33.3	28.6	△4.8	57.1	28.6
サービス業	6	20.0	0.0	△20.0	0.0	0.0
その他の非製造業	19	31.6	31.6	0.0	15.8	△15.8
	20	45.0	55.0	10.0	55.0	0.0

各期の全産業平均を10ポイント以上、上回る実績の部分に網掛けしている

## 2. 設備投資の目的～製造業、非製造業とともに「既存設備の改修・更新」がトップ～

製造業の設備投資目的は、「既存設備の改修・更新」（61.7%）が最も多く、以下、「合理化・省力化」（42.6%）、「生産・販売能力の増強」（38.3%）と続く。非製造業では、「既存設備の改修・更新」（65.0%）が最多で、「生産・販売能力の増強」（22.5%）、「合理化・省力化」（17.5%）と続く。

来期の設備投資計画は、製造業では「既存設備の改修・更新」（51.9%）、「生産・販売能力の増強」（42.3%）、「新製品製造」（23.1%）の順。非製造業では「既存設備の改修・更新」（66.7%）、「店舗・工場等の新設・増改築」「生産・販売能力の増強」「合理化・省力化」（いずれも28.2%）の順となっている。

（太田宜志）

	設備投資の目的（複数回答）									
	製造業				非製造業					
	前 期 4~6月期 (実績) A	今 期 7~9月期 (実績) B	来 期 10~12月期 (計画) C	C-B	前 期 4~6月期 (実績) A	今 期 7~9月期 (実績) B	来 期 10~12月期 (計画) C	(%) C-B		
店舗・工場等の新設・増改築	11.6	10.6	△1.0	9.6	△1.0	22.0	15.0	△7.0	28.2	13.2
生産・販売能力の増強	27.9	38.3	10.4	42.3	4.0	29.3	22.5	△6.8	28.2	5.7
合理化・省力化	30.2	42.6	12.3	21.2	△21.4	22.0	17.5	△4.5	28.2	10.7
既存設備の改修・更新	55.8	61.7	5.9	51.9	△9.8	46.3	65.0	18.7	66.7	1.7
技術・研究開発	14.0	8.5	△5.4	13.5	5.0	4.9	2.5	△2.4	0.0	△2.5
新製品製造	9.3	10.6	1.3	23.1	12.4	4.9	2.5	△2.4	5.1	2.6
新規事業進出	9.3	4.3	△5.0	7.7	3.4	4.9	7.5	2.6	5.1	△2.4
事業転換	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	△2.4	0.0	0.0
情報化	2.3	6.4	4.1	11.5	5.2	9.8	12.5	2.7	10.3	△2.2
環境対策	9.3	6.4	△2.9	9.6	3.2	9.8	12.5	2.7	12.8	0.3
福利厚生	4.7	4.3	△0.4	5.8	1.5	4.9	12.5	7.6	7.7	△4.8
その他	2.3	2.1	△0.2	0.0	△2.1	4.9	2.5	△2.4	2.6	0.1

各期の上位3位に網掛けしている

## 【参考】主要業種別DI（前期比）

【奈良県】	自社の業況		製商品在庫水準		仕入価格		販売価格		経常利益		資金繰り		雇用人員過不足	
	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月	7~9月	10~12月
全産業	△20.4	△3.5	14.5	8.7	16.6	18.0	△5.5	△4.2	△31.1	△15.9	△10.0	△5.9	0.7	△6.6
製造業	△26.3	△6.6	24.1	18.2	13.9	13.1	△4.4	△3.6	△38.0	△11.7	△11.7	△5.8	16.8	8.0
食料品	6.3	25.0	25.0	31.3	18.8	12.5	△12.5	△12.5	△25.0	6.3	△12.5	0.0	12.5	△12.5
繊維製品 (靴下)	△45.8	△29.2	33.3	25.0	29.2	8.3	0.0	△8.3	△29.2	△33.3	△4.2	△8.3	20.8	20.8
木材・木製品	△63.6	△36.4	36.4	27.3	18.2	△9.1	0.0	△18.2	△27.3	△45.5	△18.2	△18.2	36.4	36.4
化学・医薬品	△45.5	△18.2	18.2	18.2	9.1	9.1	△9.1	0.0	△63.6	△9.1	△18.2	△18.2	0.0	0.0
プラスチック製品	△25.0	0.0	12.5	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	△37.5	△12.5	0.0	25.0	25.0
金属製品・非鉄	△38.9	0.0	16.7	5.6	33.3	27.8	11.1	5.6	△33.3	11.1	△16.7	0.0	22.2	△5.6
機械工業	△38.5	△15.4	46.2	30.8	0.0	△7.7	△15.4	△15.4	△69.2	△15.4	△7.7	△7.7	38.5	23.1
その他の製造業	△42.3	△30.8	26.9	19.2	7.7	0.0	△3.8	△3.8	△73.1	△34.6	△26.9	△19.2	19.2	11.5
非製造業	△15.1	△0.7	5.9	0.0	19.1	22.4	△6.6	△4.6	△25.0	△19.7	△8.6	△5.9	△13.8	△19.7
卸売業	△24.1	△10.3	20.7	6.9	13.8	20.7	△17.2	△13.8	△34.5	△13.8	△6.9	3.4	3.4	6.9
小売業	△36.8	0.0	15.8	5.3	26.3	15.8	10.5	5.3	△52.6	△63.2	△10.5	△10.5	△15.8	△36.8
建設業	△2.4	△2.4	△2.4	△2.4	31.0	28.6	0.0	△2.4	△33.3	△28.6	△4.8	△11.9	△42.9	△47.6
不動産業	10.0	10.0	△20.0	△30.0	10.0	10.0	△50.0	△50.0	△10.0	△20.0	△10.0	10.0	△10.0	△20.0
運輸業	△42.9	△14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	△14.3	△14.3	28.6	28.6	△14.3	△14.3	14.3	0.0
ホテル・旅館	50.0	16.7	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	△16.7	16.7	0.0	0.0
サービス業	△26.3	△5.3	5.3	0.0	15.8	26.3	△10.5	5.3	△21.1	△26.3	△21.1	△15.8	△5.3	△5.3
その他の非製造業	△20.0	15.0	5.0	5.0	20.0	5.0	△10.0	5.0	△10.0	15.0	0.0	5.0	△5.0	△10.0
近隣他府県(全産業)	△41.2	0.0	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	△47.1	△17.6	△5.9	5.9	5.9	11.8

## 【調査概要】

- ・調査実施時期：2020年9月中旬～2020年10月上旬
- ・調査方法：郵送法によるアンケート方式
- ・対象企業数：892先（個人事業を含む）〔うち奈良県内841先〕
- ・有効回答数：306先（有効回答率34.3%）〔うち奈良県内289先（有効回答率34.4%）〕

〈回答企業の都道府県別内訳〉

- 奈良県 289先：94.4%  
■近隣他府県 17先：5.6% 大阪府5先、京都府7先、和歌山県3先、三重県2先

## 回答企業の業種別・従業員規模別・資本金階層別構成比

【奈良県】	先数	業種別 縦%	従業員規模別構成比（横%）						資本金階層別構成比（横%）					
			1~9人	10~19人	20~49人	50~99人	100~299人	300人以上	個人事業	1,000万円未満	1,000万円～3,000万円未満	3,000万円～1億円未満	1億円以上	
全産業	289	100.0	19.7	14.5	27.0	18.0	15.9	4.8	2.8	5.5	43.9	42.2	5.5	
製造業	137	47.4	13.9	13.1	27.0	24.8	19.0	2.2	2.2	2.2	52.6	38.0	5.1	
食料品	16	5.5	6.3	12.5	12.5	25.0	43.8	0.0	0.0	0.0	31.3	62.5	6.3	
繊維製品 (靴下)	24	8.3	8.3	16.7	33.3	33.3	8.3	0.0	4.2	4.2	58.3	33.3	0.0	
木材・木製品	11	3.8	9.1	9.1	54.5	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0	63.6	27.3	0.0	
化学・医薬品	11	3.8	36.4	27.3	18.2	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	
プラスチック製品	8	2.8	25.0	0.0	0.0	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	37.5	37.5	25.0	
金属製品・非鉄	21	7.3	4.8	9.5	38.1	28.6	19.0	0.0	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	
機械工業	18	6.2	5.6	16.7	38.9	22.2	16.7	0.0	0.0	0.0	77.8	22.2	0.0	
その他の製造業	13	4.5	15.4	0.0	46.2	0.0	30.8	7.7	0.0	0.0	38.5	38.5	23.1	
非製造業	26	9.0	23.1	15.4	15.4	34.6	7.7	3.8	7.7	7.7	38.5	42.3	3.8	
卸売業	152	52.6	25.0	15.8	27.0	11.8	13.2	7.2	3.3	8.6	36.2	46.1	5.9	
小売業	29	10.0	31.0	13.8	20.7	20.7	10.3	3.4	0.0	6.9	44.8	44.8	3.4	
建設業	19	6.6	31.6	0.0	10.5	5.3	31.6	21.1	5.3	10.5	31.6	47.4	5.3	
不動産業	42	14.5	23.8	21.4	38.1	9.5	7.1	0.0	4.8	4.8	26.2	61.9	2.4	
運輸業	10	3.5	70.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	40.0	50.0	0.0	
ホテル・旅館	7	2.4	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0	14.3	42.9	28.6	14.3	
サービス業	6	2.1	16.7	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	
その他の非製造業	19	6.6	15.8	26.3	36.8	10.5	0.0	10.5	0.0	5.3	63.2	31.6	0.0	
近隣他府県(全産業)	20	6.9	10.0	25.0	20.0	5.0	25.0	15.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	
近隣他府県(全産業)	17	100.0	5.9	41.2	5.9	5.9	17.6	23.5	0.0	0.0	52.9	23.5	23.5	